

## 社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役社長 稲垣良次

2014. 7  
No.251

### 世界を驚かせた

#### 日本人識字率の高さ

『日本は数百年にわたって世界的に高い識字率を誇っています。江戸時代の幕末期においては、武士はほぼ100%読み書きができたといえます。庶民層でも男子で約40%、50%は読み書きができました。同時代のイギリスでは下層庶民の場合、ロンドでも字が読める子供は10%もいませんでした。』

一八五三年に黒船を率いてアメリカからやってきたペリー提督は、日記に日本について、「読み書きが普及していて、見聞を得ることに熱心である」と記しています。ペリーは日本の田舎に

までも本屋があることや、日本人の本好きと識字率の高さに驚いたということです。』

（株）エルム 社長 渡辺政俊氏

我々日本人は先輩方の素晴らしい勤勉さをDNAとして持っています。本を読むことが少なくなつたと言われている現在、もう一度自分を磨くためによい本を読む習慣を身に付けたいものです。

私が感銘を受けた詩を二つ紹介したいと思いません。

一つ目は坂村真民先生の詩です。

よい本を読む

よい本によつて

己を作れ

心に美しい

火を燃やし

人生は尊かった

と叫ばしめよ

二つ目は「心の花を咲かせる」です。

こちらは出展は分かりませんが、素晴らしい詩です。イナテック企業理念に通じるものがあると思っております。

心の花を咲かせる

雑草は放っておいても、瞬く間に繁茂（はんも）する。

しかし美しい花は水を与え、肥料をやり、虫を除け、丹精込めて育てなければ花は開かない。

人間の心も放っておくと雑草が生える。

心の花を咲かせるためには、絶えず心を見張り、雑草を抜き取らねばならない。

本当に素晴らしい詩です。

私は、「美しい花は水を与え肥料をやり虫を除け」の一節は「二所懸命勉強しなさい、良い本を読みなさい」と言っているように思えてなりません。

“丹精込めて”というのは凡事徹底、つまり陰日向なく、コツコツとやり続けることだと思っております。

つまり「心の花を咲かせる」ためには、「よい本」を常に読み、学び、凡事徹底で常に「自分磨き」をすることが必要です。そうすれば心のすばらしい花が咲くのです。何事にも決して手を抜かないこと、それが私たちにとって最も大切なことではないでしょうか。

## 本心が出るまじろ

「コールセンターで、クレームをよく起すオペレーターは、足元が落ち着いていないそうです。お客様からの電話を受けるとき、足を組んだり、靴を脱いだり、サンダルをひっかけた足をぶらぶらさせているようなオペレーターは、問題を起こしやすいのです。」

逆にお客様の対応がとても上手な優秀なオペレーターは必ず足を揃えて交渉しているとのこと。

動物行動学者によると、人間の本心は顔と足元に出るそうです。顔に出るのは良く解りません。足元に出るのは意外ですが、逆に顔から一番遠くにあるため、心の模様が出やすいからだと言います。」

船井総研 橋本直行氏

このお話によれば社員のマナー研修の際には表情と足元をヒシッとさせるのがポイントになるようです。

仕事の出来栄と“足元”に相関があるとは、意外で恐ろしい話です。自身をふり返り恥ずかしくなりました。

イナテックの企業理念では、「立腰教育」や「笑顔であいさつ」を皆さんに願っています。

これからは社員の方々もお互いに“足元”について注意し合い、品格のあるキレイのいい仕事が出るようになりましょう。

菜根譚〈後編〉